

第 56 回佐賀県高齢者保健福祉推進委員会（会議概要）

令和 7 年 10 月 30 日（木）18：00～19：00

県庁新館 11 階 大会議室

○出席者

【委員】上村委員（会長）、倉田委員、中島洋子委員、宮崎委員、森岡委員、今田委員、片渕委員、小池委員、小林委員、小松委員、久野委員、山本委員、高塚委員、中島美砂子委員、原委員、松永委員、福地委員、山津委員、山元委員、石本委員（計 20 名）

【佐賀県】種村健康福祉部部長 他 13 名

1. 開会

2. 挨拶（健康福祉部 種村部長）

3. 議事

- ・第 9 期ゴールドプラン進捗状況報告
- ・高齢者施策に関する質疑応答・意見交換

4. 質問等の概要

御質問・御意見	事務局から
介護予防の推進について、新たな運動プログラム作成の背景や、継続していくための計画等をお聞きしたい。	新たな運動プログラムについては、今あるものと差別化を図り気軽にできる体操を作成している。令和7年度中にDVDを完成させて、令和8年度に県内に浸透させる予定の2ヵ年事業となっています。
ゆめさがアシストセンターとはどのような機関ですか、また、どのようなマッチングをしていますか。	ゆめさがアシストセンターは、ゆめさが大学（高齢者の学びの場）の卒業生が地域活動をするための、活動の創出の場。マッチングは、卒業生のグループと主に介護施設や通いの場をマッチングしています。
認知症サポーターはどれくらい活躍していますか。 認知症の方とサポーターを繋げる取組を検討してもらいたい。	育成したサポーターの方に研修の講師を務めてもらうなどして活躍してもらっています。
認知症施策推進の計画があれば教えてください。	県としては、認知症対応の軸足は各市町の中核機関をまず作ってもらうことであり、最終的には全ての市町に認知症中核機関を設置してもらうようにしています。
高齢者虐待防止については、常に研修や啓発が必要。 虐待の疑いがある事業所への指導の実態についてお聞きしたい。	指導する際には研修が実施されているだけでなく、全員が研修を受けているのかまで確認を行っています。また、通報等があったときは速やかに事実確認をすることを徹底しています。

<p>有料老人ホームのサービスについても現状把握をしてもらいたい。</p>	<p>県では国の指針を参考にした指導指針を元に、定期的に立入検査を行っており、今後も適切に対応していきます。</p>
<p>認知症カフェの設置等に対して補助するような考えがあったら教えていただきたい。</p>	<p>内容を調べて検討させていただきたいと思います。</p>
<p>医療介護の人材が本当に不足している。人材を増やす施策を行わなければならない。</p>	<p>(意見のみのため回答なし)</p>